

戦場の軍医と衛生兵

開催趣旨

本展は、先の大戦において前線での任務にあたった陸軍の軍医と衛生兵の医療活動を伝えるものです。

前線での軍医と衛生兵の主な任務は、止血をはじめとした応急処置、重傷者の後送などがあり、負傷兵を救護するために一刻を争うものでした。部隊の作戦行動中は、要所に包帯所、野戦病院を設けて後送されてきた負傷兵の処置や治療にあたりました。戦況が悪化するに従って、医薬品や物資が不足し、後方からの補給も困難となっていく中で、軍医は十分な薬品や医療器具がないまま手術を行うこともありました。また前線勤務では戦闘に巻き込まれて傷を負ったり、看護中に感染症にかかって患者となってしまったりすることもありました。このような前線における任務の体験を、軍医、衛生兵本人の証言、手記から紹介します。

また、軍隊生活の中で彼等の担う役割は、戦闘で傷ついた兵の処置だけではなく、将兵の健康管理、感染症の予防など生活そのものにも大きく関わっており、配属部隊や地域、戦況、傷病兵の状態によって注意すべき内容が異なりました。軍隊生活において注意すべき病気、携行していた薬などについても紹介します。

展示品は、当館に寄贈された軍医、衛生兵の職務に関する資料のほか、戦場に設けられた包帯所、野戦病院や搬送の様子を描いたスケッチ、医薬品などで、軍医と衛生兵からみた負傷兵（戦傷病者）、負傷兵の目に映った軍医と衛生兵の姿を伝えます。また、旧小倉陸軍病院に保管されていた摘出弾など、兵士が戦地で受けた傷を今に伝える資料から、軍医と衛生兵が直面した戦場での経験を感じてほしいと思います。

主 催 : しょうけい館（戦傷病者史料館）
会 期 : 令和4（2022）年7月12日（火）～9月11日（日）
会 場 : しょうけい館1階 企画展示室
入 場 料 : 無料
開 館 時 間 : 10:00～17:30（入館は17:00まで）
休 館 日 : 毎週月曜日

<7月18日（月）開館、7月19日（火）休館、8月15日（月）臨時開館>

内 覧 会 : 令和4（2022）年7月12日（火）10:00～11:00

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期等を変更・中止する場合があります。

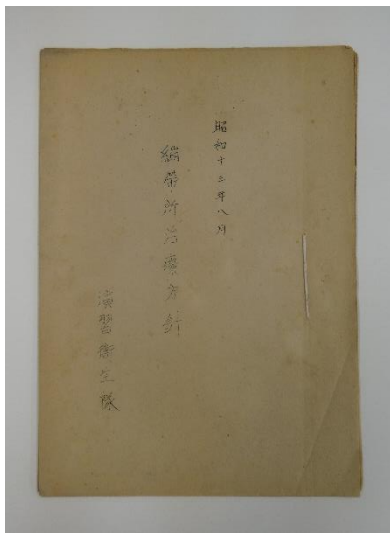
最新の情報はしょうけい館ホームページをご確認ください。

展示構成

1. 第一線の救護 包帯所

軍医や衛生兵は、負傷兵の救護と治療にあたる衛生部員です。各師団、部隊で作戦行動が始まると、軍医は包帯所、野戦病院の設置場所を決め、衛生兵を指示して負傷兵の救護と治療にあたります。負傷者が多数出る状況の中では、常に冷静な判断と処置が求められました。そして患者を治療のできる設備が整った後方の野戦病院へ搬送することが急務とされました。

ここでは、包帯所の機能、第一線での軍医、衛生兵の役割、負傷兵の収容体系、後送方法などを紹介します。また、本人の経歴や戦場での経験、戦後に戦争体験を振り返った時の思いを証言、資料とともに伝えます。



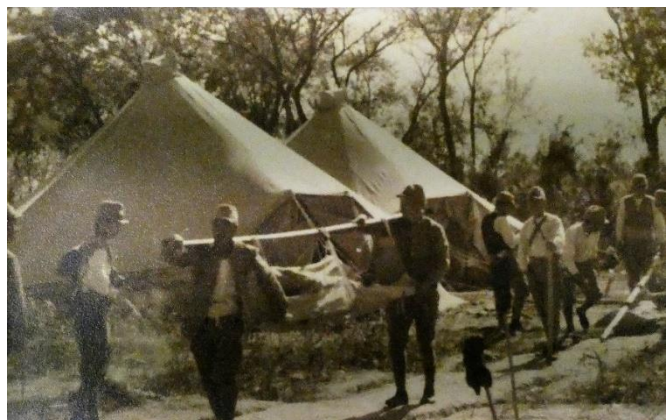
「繃帯所治療方針」
第一線での救護における要点や、
治療方針が記載されています。



腕章（陸軍）
衛生隊員は赤十字の腕章をして負傷兵の救護
にあたりました。



包帯包
兵士も負傷した際は自分で止血、手当て
ができるように訓練を受けていました。



負傷兵を搬送する様子

2.陸軍の衛生機関 野戦病院

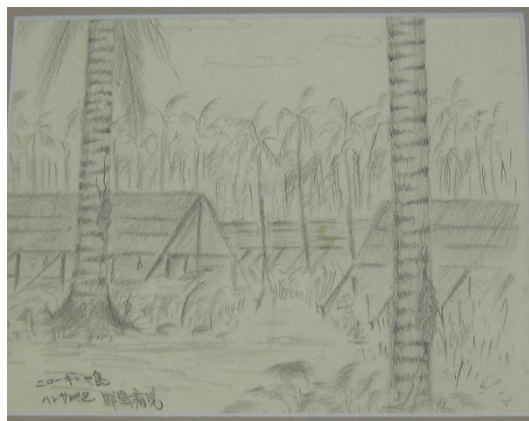
野戦病院は作戦行動に合わせて設置される移動型の病院で、前線から後送されてきた負傷兵の手術や治療を行う医療施設です。軍医と衛生兵の任務は多岐に渡り、戦闘が行われていない時には、軍医が兵士の健康観察、宿営地の環境管理など、病気の予防や衛生指導をおこない、衛生兵は軍医の指示を受けて、傷病兵の看護、水の確保や周辺環境の視察などをおこないました。

ここでは、野戦病院の機能、野戦病院での軍医、衛生兵の役割を、ニューギニア、ガダルカナル島、ビルマ（現ミャンマー）など東南アジア方面に派遣された方の体験を中心に紹介します。また、戦地で発生するマラリア、デング熱、アメーバ赤痢などの戦病や常備していた医薬品についても紹介します。



軍医の聴診器

病気の兵士を診察するのに欠かせないものでした。



ニューギニアの野戦病院（絵画）

ジャングルの中に開設した野戦病院が描かれています。



衛生兵（絵画）

腰に赤十字マークの入った衛生兵嚢を下げています。



管入ヨーチン

消毒薬として衛生兵が常備していました。

3. 小倉陸軍病院の摘出弾

ここでは小倉陸軍病院（現独立行政法人国立病院機構小倉医療センター、福岡県北九州市）に残されていた摘出弾を紹介します。長らく病院の一角で保管されていた摘出弾は、陸上自衛隊小倉駐屯地に一時保管された後、2019年に当館へ寄贈されました。

先の大戦や日露戦争などの戦場で、被弾した兵士の身体から取り出された弾のひとつひとつには、受傷した時の場所、どのような傷を負ったのかが記されています。戦場での痛みを今に伝える資料として、当館に寄贈された約250点を展示します。



摘出弾
昭和13年、16年のもの



摘出弾
日中戦争期のもの



摘出弾
日露戦争期のもの

映像上映

内 容：企画展に関連する映像を上映します。

日 時：会期中 10：00～17：00（一部上映休止日・時間帯があります）

場 所：しょうけい館 1階 証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

	映像タイトル	時間
10：00	インパール作戦の最前線で一隊附軍医の記憶一	20分
}	本土決戦前の軍医教育～元陸軍衛生部見習士官の記憶～	20分
11：00	元海軍薬剤少尉の記憶	19分
11：00	衛生兵のビルマ戦線	22分
}	衛生兵ゆえの感染	11分
12：00	西部ニューギニア・軍医の闘い	24分
12：00	国のために生きて～元海軍軍医中尉の記憶～	23分
}	天地の恵みを知る～ニューギニアで終戦を迎えた軍医～	20分
13：00	海軍看護兵 若き日の記憶	15分
13：00	元海軍薬剤少尉の記憶	19分
}	衛生兵ゆえの感染	11分
14：00	西部ニューギニア・軍医の闘い	24分
14：00	本土決戦前の軍医教育～元陸軍衛生部見習士官の記憶～	20分
}	衛生兵のビルマ戦線	22分
15：00	衛生兵の受傷	10分
15：00	インパール作戦の最前線で一隊附軍医の記憶一	20分
}	国のために生きて～元海軍軍医中尉の記憶～	23分
16：00	衛生兵ゆえの感染	11分
16：00	天地の恵みを知る～ニューギニアで終戦を迎えた軍医～	20分
}	元海軍薬剤少尉の記憶	19分
17：00	衛生兵のビルマ戦線	22分

上映時間以外でも、情報検索機で視聴頂けます。